

*Away*



## はじまりはじまり

---



我輩は猫である。

名前は...

あるぞ、きっちりあるぞ。

と・ば・りっ、帳だ。

もう、忘れたかも知れんが看板猫の帳だぞっ...

思い出してくれ、記憶の片隅から引き出しておくれえ〜。

おっ、はじめましての方もいらっしゃるやも知れんから此処

でご挨拶。

ラブホ【Night fall】の看板猫、帳と申す。

人の様子を伺うのをなによりの楽しみにして生きている、しがない雄猫。

よろしくっだね！

まあ、今までいろんなキャラの人を見て紹介などもしてきたが...

大事な人を忘れてるなって事に最近気付く。

実は、うちのオーナー【Night fall】の経営者を紹介していなかった...

変人なので、あまり表に出したくなかったってのもあるんだけどね。

一応...闇乃亜希（やみのあき）アラフォーのむさい男だな。

けれど、帳の飼い主でもあるからあまり悪くも言えない。

が、ほんと変わってるんだ。

だって、このラブホの最上階を改装し一人住んで居る。

だからといって仕事場に顔を出す事は滅多にない。

門前さんらスタッフに任せっきり...

それで成り立つから、全然いいんだけどね。

で、何で亜ちゃんを...あっ、オーナーを紹介するかというと。

最近、亜ちゃんで行った旅のお話をご紹介しようかなって思ったもので...

あまり、ぐだぐだ話していると先進まんね。

では、先日行った岩手県遠野市の旅はじまりだっ。



ある日、何を思ったのか突然旅に出るって言って亜ちゃんが帳を車に乗せエンジンをスタート。

帳は何時ものように亜ちゃんの肩に乗り「何処行くの」と質問してみる。

ハンドルを握ったまま亜ちゃんが、帳の質問を理解したかのように応えてくれた。

「これから、岩手県の遠野市に行くつもりだ。でな、宿泊先はペットオッケなところだからお前と俺の2泊3日の旅のはじまりだ」と。

遠野市近郊の宿泊施設では、ペット可なお宿がかなりある。

まず、【きくゆう】さん、【鍋城】さん、【徳田屋】さん、【古軒】さん、【おとぎ屋】さん、【みんなの宿縁】さん、【コテージランドかしわぎ】さんなど...

結構あるでしょ。

亜ちゃんは、関東から東北自動車道を使い北へと向かった。

帳は、車が移動してる間は酔ってしまわないよう何時も亜ちゃんの足元...

つまり運転席の下で仮眠するのだ。

数時間した頃、亜ちゃんのでかい声で起こされる...

「帳見ろ。狐の嫁入りだぞ」

東北自動車道を走り続け、北緯39度を越え奥州藤原氏で有名な岩手県奥州市に入ったばかりの頃だった。

「何その狐の嫁入りって...」

亜ちゃんの肩に乗ってみたものの、狐の姿は見ることはなく。

流れる風景に酔いそうになるも、天気は良く晴れ...

アレッ、晴れてるのに雨だ。何で？

「帳。これが狐の嫁入りなんだよ。お天気雨は昔からそう言われているんだ」

何で、ねえ、何で狐なの...嫁入りって。

「何でかってえと...俗信に由来してんのかな。まあ、解らんけど」

知らんのかいっ。

「何にせよ、遠野旅行に来て狐の嫁入りで出迎えられたんだから歓迎されてんだろ。妖怪様ありがとお」

ハァ～始まった。

妖怪変人男。

この旅行も妖怪の伝承地を巡るって言ってるしどうなる事やら...



## 山崎のコンセイサマ.1



暫くして、遠野市に到着した。

亜ちゃんは、此处に来たのは2度目らしいが帳は初めてだ。

印象としては小さな町、静かで何故か懐かしさを感じさせてくれる穏やかな町。

そんな遠野市に到着したのは15時を回った頃...

チェックインにはまだ早いので、遠野遺産第46号でもある【

山崎の金勢様】に行ってみる事に。

コンセイサマは遠野駅より340号線を北東に12、3キロといった所に位置している。

駅前にレンタサイクルがあるけれど...自転車で行くにはかなり根性があるよ。

近くまで来ると車が一台通れるのがやっとな程細い道になり、

そこをゆっくりと登って行く事になるのだ。

その登り坂を登って行く途中に休憩所があるのだけれど、トイレなどはそこで済ませるのをお勧めする。近場にもあるにはあるが女性にはキツイかも。

そして、たどり着いた先にしっかりと雨に濡れたコンセイサマの祠が静かに佇んでいた。亜ちゃんは古めかしいトイレの前に車を止め初遠野の地に降り立つ。

だいぶ日が傾きつつあるその場所は、森に囲まれ静かすぎるくらい静まりかえっている。ほんの少し傾斜した場所に案内碑が置かれ、そこにはこのように書かれていた。



山崎のコンセイサマとは

遠野には多くの素朴なコンセイサマが子授けや豊作の願い神としてまつられていますが、昭和47年に発見されたこのコンセイサマは高さが15メートルもあって最大です。背後の山頂の賽（さい）の河原と一対にして、中世の人びとは「死と再生の地上まんだら」をここにつくっていました。



亜っちゃんの肩に乗り案内碑を見ていると...

「死と再生の地上曼荼羅...いい響き」などと自己陶醉するアラフォー男。

いい加減この癖止めればいいのに。

「おお、あれは...男女を示す巨石か」

案内碑の右斜め前にトラロープで囲った場所がある。

そこには巨大すぎる、イヤ...立派な男女のシンボルがあった

。

どんだけな程の大きさ。

そして、緩やかな傾斜を登り切ると目的の金勢様が祀られている祠。

左側にはこれも立派な巨石とお清めの水。そこに案内板がある。

コンセイサマ

コンセイサマは、金勢様又は金精様と書きます。

子宝を願う婦女子が、ここに奉納されている赤い小枕を一つ借りてきて枕元に置き、

願いが叶えられれば二つにしてお返しするならわしです。

御神体は、男性の象徴を現し、すべての物事を神に結びつけた民間信仰に由来するもので、これは駒形信仰とも混同されるようになりました。

が、本来は生産の神として信仰されたもののようです。

「遠野物語」第16話 参照

と、書かれていた。

「一方では子を授かるのを必死に願い。そして、また一方では...かつ」

えっ、何。亜っちゃん何が言いたいの。

...亜っちゃんは本堂へと歩き出し薄暗い内部を覗き込む。

立派な御神体と共に、小さなキューピーも祀られていた。

最後に見つけた思い出ノートに、ほんの一行書き込み山崎のコンセイサマを後にした。



帰り際、見つけた樹木に実っていた実は一見すると妖怪の手のようにも見え...

亜っちゃんはニヤニヤしながら写真を撮っていた。

そして、次の目的地【カップ淵】へと向かう。

## かっぱ淵.1

山崎のコンセイサマを遠野駅方向に車で戻ること約10分程度。

常堅寺裏にカッパで有名な淵がひっそりと佇んでいる。



と言っても解らんよね。

340号線を遠野駅へと戻るのね。

それで、右側に伝承園があるからそこに車を止めて反対側にある細い道を5分程歩けばかっぱ淵の看板があるよ。

ナビを使って行くとだね常堅寺ぎりぎりまでナビしちゃうのさ。

でね、細い細い道を進む事になるのね...でもって、対向車が来たら、どちらかがバックして道を譲る事に。

だから、普通は伝承園の駐車場に置いて徒歩でかっぱ淵に行くみたい。

そんな事を知らない亜っちゃんは、常堅寺の真ん前まで車で行っちゃったものだから、檀家さん専用駐車場に留め置くはめに...本当はいけないと思うよ亜っちゃん！

常堅寺の門を潜ると左手方向にカッパ狛犬があり、その付近に怪しげな石群がある。

亜っちゃん亜っちゃん、ねえってば...あれ狐に見えるんだけど、どう思う。

亜っちゃんもそれが気になったのか、またニヤつきながらデジカメ撮影...

案内碑がないから、よく解んないけど遠野は怪しげな場所がいっぱいだね。





「帳、見てみな。このカッパ狛犬の頭...本当にカッパの皿みたいだろ。けれど、実際の経緯ってのがあってな...」

わあ～わあ～、ロマンがない話する気だよね、ねっ。

そんな話しは聞きたくなあ～い。

「いっ痛。と、帳...爪を立てるなって、もう。お前さあ、昔からだけど自分に都合が悪くなると爪立てたり、そっぽ向いたりするよな...その癖やめたほうがいいよ」

亜っちゃん、お互い様だから...ほっといてくれる。

「まあいいや、かっぱ淵行くよ」

へへっ、よかった。

帳はロマンチストだかね、夢のない話しは聞きたくないのさ。

カッパ狛犬を過ぎ寺の左手にある渡り廊下を潜ると、いよいよかっぱ淵へと辿り着く。

そこは、ひっそりと静まり返り、そよそよと清流が流れていた。

小さな木造の橋が架けられ、右横に案内碑とトーテムポールなカッパがお出迎え。

亜っちゃん変なカッパ...あっ、手に栗持ってる。

アレっ食べていい、ねえ食べていいっ。

「ああもう、頭をぽんぽん叩くなヘアスタイルが乱れる...ん、何。栗、食べたいの？あれ生栗だろ、喰うと...屁が出るぞ」

えっ、そなの...辞めとく。

それと、ポニーテールヘアは乱れないのでは...





## かっぱ淵.3

案内碑には、次のような事柄が。

馬を川に引き込む悪戯に失敗したカッパは、お詫びをして許され、母と子の守り神となりました。

常堅寺の火事のさいは頭の皿から水を吹き出し消し止め、今でも一対のカッパ狛犬として境内にその姿を留めています。



へええ、此処のカッパ偉いじゃん。

それに...イリュージョンだね亜っちゃん...って、無視かよ。

かっぱぶちばしを渡る頃には、夕方のせいか周囲も薄暗くなり流れる清流がいつそう妖しく見え、今にもカッパさんがひょこって出てきそうな雰囲気。

歩みを進めると、先に小さな祠が見え隠れする。



遠野遺産第22号のかっぱ淵。

遠野の河童は顔が赤いと云われその伝説は数多く残っている。

「小烏瀬（こがらせ）川の姥子（おぼこ）淵の辺に、新屋の家といふ家あり、ある日淵へ馬を冷やしに行き、馬曳きの子は外へ遊びに行きし間に、河童出でてその馬を引き込まんとし、かへりて馬に引きずられて厩の前に来たり……」

遠野物語第58話

この阿部屋敷の水ごうの流れ淵には河童駒引きの伝説を伝える河童神様を祀っている。

洞の中には乳首の縫いぐるみが奉納されており、乳の信仰に転化している興味深い民俗がある。と、案内板に書かれている。



## かっぱ淵.4

それを読み終えた亜っちゃんは、神妙な表情で呟く。

「帳、この辺のカッパって顔が赤いって云われてんだ。何でだと思っ...」

えっ、顔赤いの...緑色じゃないのカッパって...何でと言われても解んないよ。



「遠野のカッパ伝承は他に5話程あってさ...此処に書かれているのは、まあ無難な話してやっかな」

フーンそうなんだ。でも、無難な話してどういう意味。

「帳は赤い顔で思い浮かぶのは何がある」

えっと、酔っ払い、怒った人、猿、赤ちゃん...



「乳首に結び付く赤い顔...伝承に見え隠れするのは、何も華やかなものばかりではないって事だよ」

亜っちゃん、ソレって...

その後亜っちゃんは無言のまま辺りを散策し二対の女カッパと祠、清流などを写真に収め、近くにあったお稲荷様を参拝し次の目的地へと向かった。

